

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 8 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103366		
法人名	医療法人 梅田クリニック		
事業所名	グループホーム 静春		
所在地	岐阜市西島町2番6号 (電話) 058-296-7005		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	平成19年9月6日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 10 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 11 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000・80,000 円	その他の経費(月額)	20,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000・350,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 10 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 74 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梅田クリニック・岐阜市民病院・森清クリニック・城西歯科・えばた歯科
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、3階建てのビルにあり、周辺には商店・施設等の豊かな社会資源に恵まれている。法人は地元開業医院としての知名度・評判も高く、利用者・家族から安心と信頼を得ている。医師である代表者は、毎日ホームを訪れ、利用者の状態把握に努めている。ホーム開業以来、職員の退職、入れ替えはほとんど見られず、馴染みの顔のスタッフと共に、安定的な暮らしが営まれている。職員の研修への取り組み、学習意欲も高く、福利厚生も整い、安定した職場環境が見られる。今後とも、地域密着型ホームとしての発展が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題は改善し、家族とのコミュニケーションの重要性を、全員で確認共有している。介護計画にも家族の意向が反映され、日常的な外出支援も積極的に行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者以下全職員が、自己評価の内容と意義を理解し、意見を出し合いながら改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2カ月毎に運営推進会議を開催し、行事報告やホームの取り組みについて報告し、参加者より、建設的な意見をもらっている。地域防災対策なども議題となり、具体的な体制作りに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の機会が多く、気楽に意見が言えるような関係作りに努めており、家族から意見を引き出しながら運営に反映させている。家族へ送る写真入の便りや通信文でも、アンケートの中に要望を記入してもらうように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会からの積極的な協力が得られ、馴染みの身近な住民たちと挨拶を交わしたり、良好な関係ができています。また、周辺には様々な商店が連なっており、買い物に立ち寄りたり、地元小学生との交流を続けるなど、地域に開かれたホームとして、理解と協力が得られている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で安心と安全で、かつ、安定的な生活が送れるよう、馴染みの環境の中で、介護・医療の充実を目指した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内の見やすい位置に掲示し、管理者、職員は、常に意識しながら、利用者本位のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板にホーム情報を乗せたり、積極的な協力関係ができています。近隣とは気軽に挨拶したり、訪問してもらっている。また、具体的な災害時の協力体制づくりの話合いがもたれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、評価の意義を理解共有し、全体会議では、評価に対する多様な意見を取り入れながら、改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議が行われ、議事録も整理されている。ホーム運営全般が討議され、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課へホーム運営上の報告をし、課題等は、相談し助言をもらっている。また、市担当者もホームを訪問する関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月送る請求書・領収書と共に、個別に作った写真入のホーム便りで、暮らし振りを伝えている。また、頻回に訪れる家族とのコミュニケーションの機会を大切にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は、これまで活用されてこなかったので、毎月の通信にアンケート様式の要望書を送付している。家族からは意見がでにくいので話し合いの中で、意見を引き出すように、信頼関係の構築に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職・異動はほとんどなく、馴染みの関係が維持されている。新しい職員には、利用者が慣れるまで、ベテラン職員と組み合わせをするなど、工夫されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の内部研修、段階に応じた外部研修に積極的に参加している。受講者は、成果を全職員に伝達する体制ができている。働きながらの学習にも、日々取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、最新情報を入手している。地域の同業者とも相互見学の交流があり、サービスの改善に取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用者、法人医院の通院患者等が入居しているので、馴染みやいい環境がある。ホームの見学や、自宅訪問などの工夫もしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかた喜びを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴を把握する中で、得意なものを教えてもらっている。習字や野菜・花作りの得意な人もいる。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を取り入れ、昔懐かしい、映画や歌謡曲を見たり聞いたり、話題にしながら楽しんでいる。携帯電話所持者も5名おり、家族との交信が情緒安定につながっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月行われる全体会議で意見を出し合い、本人・家族の希望も取り入れながら介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、職員の意見や気づき、状態の変化、本人・家族の意見を聴きながら見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や喫茶店への外出支援、外泊、法事などへの送迎支援を行っている。また、階下フロアのデイサービスと日常的に交流している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医師が、毎日訪問し状態を把握している。家族からは安心と信頼が得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に本人・家族からの要望を確認しているが、状況により、医師と家族が十分話し合いながら対応するようになっている。職員もターミナルケアについての勉強会が行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや、さりげない誘導などに心がけるように徹底している。個人記録は事務所内で安全に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事メニューの内容、外出希望、入浴や趣味など、一人ひとりの希望にそった支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ、テーブル拭き、お茶の準備、片付けなどに参加している。おやつ作りやパーティでは利用者が主体的に関わることができる場面が設定されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回入浴の機会があり、楽しく入ってもらえるように支援している。現在は、お風呂嫌いの人はいないとのことであった。また、重度者のための機械浴も提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を把握し、本人の意欲を引き出し、喜びにつなげる様に努めている。ガーデニング、映画鑑賞、貼り絵など、様々なことを楽しんでいる姿があった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺への散歩、喫茶店、本屋・薬局・スーパーへの買い物等、日常的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ビル建物の構造上、階段ドアとエレベーターは、暗証ボタンでの開閉となっている。利用者の行動が職員の目の届く位置にあるため、ケースに応じ、一緒に出入りし、寄り添うことで、疎外感・閉塞感の解消に配慮している。		明るくゆったりとした広い空間と、利用者のペースに寄り添うことで、疎外感・閉塞感の解消に配慮されている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害防止マニュアルが整備され、年1回の避難訓練を実施している。運営推進会議でも地域協力体制について討議し、了承が得られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリーが計算され、バランスの良い調理に反映されている。摂取量は管理表に記録され、偏らないように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側はガラス張りで、景観もよく、採光を程よく取り入れ、広く明るい共用空間が確保されている。ベランダや中庭では、プランター菜園で季節感を楽しんでいる。また、室内の各所には花が飾られ、心地よい雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた、寝具・絵画・仏壇・趣味の用品・写真などがあり、居心地良く過ごせるように配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。